

Q 経営管理の高度化を目指し会計システムを導入しました。まずは予算管理をしていきたいと思いますが、留意点教えてください。

A 今回の会計システム導入は会計データを有効に活用し、Plan(計画)・Do(実行)・Check(検証)・Act(改善)のいわゆるPDCAサイクルを着実に回すこととが目的だと思います。とはいっても、Aサイクルを着実に回すことはPDPDに終始する企業も多い。

多くのいかに、C(検証)とA(改善)につながる予算管理の仕組みを作り上げることを

多く、いかに、C(検証)とA(改善)につながる予算管理の仕組みを作り上げることを考えていきましょう。

②売上原価予算「顧客別」

③経費予算 販売費および一般管理費のうち、固定的に

もしくは「製品カタログリー」に基づいて、売上高に対する仕入高・外注加工費比率が逆算で求められます。この比率を個別に算出することです。

各の売上高から数%ずつ増加させただけの予算では分析ができないので注意が必要です。

この売上高予算に乗じて計算することができます。

これが、売上原価予算を組むことができます。

①売上 実績と予算の対比で「顧客別」もしくは「製品別」に単価と数量のいずれに問題があるのか分析を行います。(C(検証))。単価下落であれば見積精度の向上、数量下落であれば営業方法の見直し等、改善策を作成し実行します。(A(改善))。

以上のように予算管理を行うために、予算・実績・差異の把握を行つ必要があります。表計算ソフトを活用しましょう。

ただければと思います。

予算管理導入の留意点とは

まず立てるべき三つの予算

もしくは「製品カタログリー」支出されるものがあります。

別に情報を整理する過程で、これを「管理不能費」とし、それ以外の「管理可能費」を個別に狙うべき粗利率が明らかになります。粗利は売上高から仕入高・外注加工費を引くことで算出されます。個別費支出の管理を行います。

②売上原価 仕入高・外注加工費予算の比率と実績の比率を分析します(C)。

合せの徹底、歩留まり向上、在庫ロス削減等、改善策を作成しに実行します(A)。

連絡先は一般社団法人埼玉県中小企業診断協会(☎048-762-33350)。

中小企業 診断士による 経営 Q&A

埼玉経済

①売上予算 御社の実情に応じ、「顧客別」もしくは「製品カタログリー」別」に売上予算をつくることから始めます。ポイントは、「顧客別」に狙うべき粗利率の設定がで

■PDCACのCA推進■

PDCACのC(検証) A(改

成しに実行します(A)。

もしくは「製品カタログリー」

別に情報を整理する過程で、これを「管理不能費」とし、それ以外の「管理可能費」を

加工費予算の比率と実績の比率を分析します(C)。

連絡先は一般社団法人埼玉県中小企業診断協会(☎048-762-33350)。